

直税收入規程  
ワイルド国

第壹号

2989





414  
A 1888  
1



諸直税并畜犬税内國火災請合料ノ收入規則千八百七十七

四年十一月十七日發行

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

令般將ニ獨逸新貨發行ノ舉アラントシ且獨逸帝國ノ布令ニ披  
テ曩ニ直税收入方法ニ涉リ改定スル所アルヲ以テ予茲ニ千八  
百五十四年六月二日發行ニ係ル諸直税并畜犬税内國火災請合  
料ノ收入規則ヲ廢シ更ニ左ノ條例ヲ定ム

第一章 地方收稅方ノ職務章程

第一條

諸直税并畜犬税内國火災請合料ヲ收入シ及ヒ之ヲ各縣出納支  
局ニ納附スル事務ハ各町村收稅方ヲ置キ擔任セシムヘシ  
甲) 住民二千人以上ノ町村ノ收稅局ハ勿論假令ヒ二千人以上  
ラサル町村ノ收稅局タリトモ若シ間收稅收入事務ヲ兼任セシム



ルトキハ政府ノ見込ニ拠テ建設スヘシ千八百五十年三月五日  
発行ノ官省改定令中第五共第六十七條ニ涉リ千八百五十三  
年十二月十七日発行ノ附録第一條ニ照準スヘシ  
乙其他ノ町村ニ在テハ前ニ記載セル千八百五十年三月五日發  
行ノ布令中第五共第六十七條ニ照準シ町村内人民ノ見込ヲ以  
テ收稅局ヲ建設スヘシ

### 第二條

前條(甲)ニ於テ制定セル政府補任ノ收稅方及其職務ハ千八百五  
十年三月五日発行ノ内國職務條例(行政新報百二十七號)次葉  
ニ見テ第二條ニ於テ制限スルモノ、外ハ都テ該條例ニ照準ス  
ヘシトス

### 第三條

各町村ヨリ撰舉セル收稅方ハ第一章乙直ニ區務所ヨリ補任ス

ルヲ得ス

收稅方ノ撰舉ニ方リ其町村又ハ町村吏負ノ利益ヲ謀リ候補人  
ヲ要約スルヲ得ス

### 第四條

第一章(甲)ニ於ケル收稅方ヲ除ク外ハ凡ソ收稅方ハ其職ヲ辞セ  
ント欲スルニ方リ先ツ戸長ニ之ヲ告ケサルヘカラス

前文ノ如ク辭職スルカ或ハ死亡ニ拠テ新ニ欠負シ又ハ欠負既  
ニ久キ際ニ在テハ戸長ハ速ニ町村典議(千八百七十四年六月二  
十四日ノ新町村條例第八章第十四節及第四十三節)ニ通知シ若シ其町村  
條中第五節第四十六節及第八十節ニ見ユニ通知シ若シ其町村  
ノ規程ニ從テ典議ノ設キ地ナレハ町村會ニ就テ補員ヲ撰マ  
シテ報告書ヲ製シテ大藏寮司イマ一此ニ於テハ太政官ノ中大  
省官ニ上申シ其命ヲ待ツヘシ



右ノ報告書ニハ町村共議又ハ町村會ノ撰舉決議ヲ明書シ戸長及共議長又ハ會計長之ニ鈴印シ若シ戸長會此撰ニ當ラハ其代理人鈴印シ所管縣令ノ証印ヲ副エヘントス

收税方ヲシテ保証金多ク金額ヲ官ニ附托セシラ出サシムルト否トハ專ラ其町村ノ見込ニ委但町村ハ收税方ニ代テ保証ノ責アリ

町村ヨリ撰舉セル收税方ヲシテ卷末ニ附セル甲号誓詞ニ從テ誓ハシメ共出勤ヲ命シ收入税金ヲ引渡ス等ハ若シ撰舉ノ方共撰舉ヲ得タル人ニ對シテ政府ハ更ニ異論ナキニ方リ其官長局タルヘキ大藏寮ノ指令ヲ以テ出納局ヨリ命スルモノトス凡ソ撰舉ノ方法及撰舉人ニ関スル争議ハ縣令又ハ縣代議士中ヨリ再撰スル者ニ之ヲ判断スルモノトス新町村條例第四百シテ亦行改ノ權アリ十五章ニ見ユ

若シ町村ニ命シテ收税方ヲ撰舉セシムルモ敢テ之ヲ撰マサルカ又ハ撰舉人辭シテ職ヲ奉セサルニ因リ收税事務上為ニ不利ヲ生スルヲ視ハ政府ハ假ニ收税事務ヲ受理シ費用ハ民費ヲ以テ給セシムヘシ

第五條

町村ハ其收税方ニ代テ責任ヲ帶ルヲ以テ戸長ハ常ニ收税方ヲ監督シ其事務ヲ執ルニ敢テ規程ニ戾ラサルヤ又局内殘金ノ高、規則上豫定ノ數額ニ超過セサルマヲ視ルヘントス

第六條

町村收税方ノ長局タルモノハ

(甲) 會計本局

(乙) 大藏寮

收税方ハ此等ノ長局ヨリ命スル所ノ事務ヲ奉シテ常ニ怠慢ス



ヘカラス又該長局ニ在テハ收税方ヲシテ其命遵奉セシメシメ  
ニ懲戒律ヲ以テシテ罰責スルノ權ヲ有シ且時々檢査及出納巡  
視ヲ行ヒ執務ノ正否如何ヲ監察スルノ權アリ

第七條

町村ヨリ補撰セル收税方ハ若シ職務ニ適ハス或ハ懲戒律ニ  
リ罰責ヲ受ルモ尚ホ怠慢敢テ改メサルトキハ大藏察ハ其町村  
ヲシテ之ヲ罷免シ適當ノ者ヲ再撰セシムルノ權アリ其他従來  
ノ收税方ハ罪アリテ裁判所ノ訊問ヲ受ルトキハ大藏察ハ該町  
村ニ命シテ假ニ代負ヲ奉ケシメ後々裁判ニ拠テ有罪ノ狀明白  
ニ至レハ免職セシムヘシ

町村若シ適當ノ收税方ヲ撰擧セス随テ該收税局ノ職負ヲ欠  
トキハ大藏察ハ臨時自ラ局務ヲ司管スルヲアルヘシ但此ノ際  
諸経費ハ區ヨリ之ヲ出サシム(千八百五十三十二月十七日ノ官

省改定令附録第二款ニ見ユ

第二章 町村收税方ノ職務範圍

第八條

町村收税方ハ左ノ諸税ヲ收入ス

第一 諸直税

- (甲) 舊地稅
  - (乙) 第一級及第二級地方歳入稅第十條ニ詳カナリ
  - (丙) 外國商工ノ内國ニ營業スル者ヨリ擧クル産獲稅第十條ニ詳カナリ
- 稅ニ同シ但特ニ之カ收入ヲ命セラレタル吏負ニ限ル

第二 畜犬稅

第三 内國火災請合料

右ノ諸税ハ其町村内ニ限り然レトモ第一ニ屬スル税類ハ假令



七免稅セル田園ナリトモ其地租帳ニ記載セル者及所有主ハ他所村ニ住居スル田園ハ其町村稅價表ニ記在スルモノヨリ之ヲ收ムヘントス以下各種ノ稅類ニ就テ追條示ス所ノ原規ニ批リ收入スヘシ

第九條

舊地稅ハ町村内ノ田園ハ勿論又其地租帳ニ屬スル町村外ノ田園ヨリ率ルモノニシテ之カ為ニ豫メ算定セル地租ノ稅價ニ照準シ一歲ノ稅額ヲ八三分ノ一下第十六條ニ詳カナリニ分テ收入ス千八百六十九年三月十八日發行ノ租稅憲法改正條列附録ニ涉ル千八百七十四年五月六日布令ノ第四并第五條ニ見ユ

第十條

歲入稅ノ收入ハ千八百六十九年三月十九日ノ歲入稅條例同七十四年五月七日ノ該條例附録又同六十九年十一月十九日同七十四年十一月十一日ノ該條例施行ノ為メ突セル事務章程ニ從ヒ地方會計局又ハ地方租稅算定事務官ニ於テ稅價表ヲ製シ之ヲ地方收稅方ニ授付シ其稅額ヲ收メシム

第十一條

外國工商ノ内國ニ於テ營業スル者ヨリ率ル產獲稅ハ警察所ヨリ典ル營業鑑札ニ基テ收入スルヲ以テ唯此ノ如キ警察所設置ノ地方ニ於ケル收稅方ノミ收入ノ任アリトス

第十二條

畜犬稅ハ千八百五十二年五月十二日ノ布令同三年十二月十五日ノ該令附録同六十八年二月十日ノ布令同五十二年五月十二日ノ行務章程同五十四年二月十五日ノ附録同六十八年三月二日ノ太政官布告旨趣ニ照準シ其地方警察所及會計局ヨリ出セル記錄ニ拠ニ收入スルモノトス



第十三條

内國火災請合料ハ千八百二十六年八月二十八日ノ布令及千八百七十四年七月二十九日ノ布達ニ基キ地方會計局ニ於テ臨時報告ノ狀況ニ從テ毎年請合元帳ヨリ算定シ收税ニ送付スル所ノ請合料人負簿ニ照準シテ收入スルモノトス

第十四條

其他收税方ハ大蔵察ノ命ヲ奉シ千八百三十九年三月十一日ノ租税算定簿記載式ニ涉リ規程同六十一年二月十八日ノ租税算定方職制及六十四年六十六年六十九年同年十二月二十四日共七十四年ノ該職制附録ニ照準シテ租税算定簿記載ヲ擔任スヘシ

第十五條

收税方ハ諸長局出例ハ租税會計ノ求ニ應シテ報告ヲ呈シ及其他職務上ニ涉ル求ハ統テ命ニ應スヘク又指令ヲ奉シテ收入セ

ル税金ヲ納附スル責務アリ凡ソ租税延納或ハ免稅ヲ請フ者アルニ會セハ須ラク真正忠實ノ心ヲ以テ請願ノ事情ヲ詳記シ自己ノ意見ヲ副テ上申スヘシ

第三章 諸直稅畜犬稅及内國火災請合料ノ收入期限

第十六條

第一(舊地租ハ全額ヲハ三分ノ一ニ分テ之ヲ收ム

(甲) 一月一日ヲ以テ收入期限ノ初日トシ全額ノ一、三分ノ一ヲ收ム

(乙) 二月四月五月七月八月十月十一月ニ於テ毎月一日ヲ以テ收入期限ノ初日トシ各一分ヲ收ム

此ノ如ク毎三ヶ月ヲ一期トシ其期分ノ稅額ハ必ス皆納セシメ期ヲ起ハシムヘカラス

第二歳入稅ノ中第一類ノ第二級ニ屬スル者ハ一月一日ヲ以テ



全歲稅額ノ收入期限ヲ初ノ每三ヶ月全額四分ノ一ヲ納シム  
又第二類ノ第一及第二級ニ屬スル歲入稅ハ一月一日ヲ以テ上  
半年分七月一日ヲ以テ下半年分稅額ノ收入期限ヲ初シ此ノ日  
ヲ以テ半歲分ノ稅額ハ既ニ收入滿期ノモノト見做シ每三ヶ月  
必ス其半額ヲ收シムヘシ

第三外國工商ノ産獲稅ハ營業鑑札ヲ附與スルニ際シ收入スヘ  
シトス但該鑑札ハ營業稅ト引替ニテ附與スヘシ

第四畜犬稅ハ四月一日及十月一日ノ兩度ニ於テ每半歲分ノ收  
稅全額ヲ前納セシム

第五内國火災請合料ハ其時々納附期日ヲ定メ之ヲ公告シ該期  
日ヨリ四週内ニハ皆納セシムヘシ

第十七條

地稅ハ地租帳ニ於テ地主ヲ書替ヘサル間ハ必ス其地ノ名前主

ヨリ之ヲ收ム然レトモ若シ地主會外ニ在リ而代理人ヲ置カス  
或ハ家ニ在ルモ納稅ヲ肯セス又ハ他ノ原由ニ因リ更ニ收稅ス  
ルヲ得サルキハ收稅方ハ須ラク其管長ノ稅局ニ告ケ之ヲシテ  
臨時田園又ハ其作物及收穫ヲ以テ該稅ノ抵當トナスヲ得セシ  
ムヘシ

土地田園歲入稅(歲入稅第一等ノ第二級ニ涉リ稅價表ニ於テ第  
一等ノ第二級ニ當ル者ハ如何ノ場合ニテモ全歲ノ稅額ヲ納シム  
ヘシ)

歲入稅第一等ノ第二等ニ當ル者ニシテ上半年ノ内ニ於テ從來ノ居  
住ヲ轉移シ而該轉居ハ既ニ稅價表布告ノ後ニ係ルキハ前住居  
ノ町村ニ於テ唯上半年ノ稅額ノミヲ收ムヘシ(第十六條ノ第二  
ヲ參考スヘシ)

然レトモ右轉居ハ七月一日以後ニ係ルキハ全歲ノ稅額ヲ先住



ノ町村ニ納シムヘシ

若シ獨逸帝國屬ノ者ニシテ一時候領内即チワイマールニ住

シ半年内ニ於テ之ヲ去リ他ノ聯邦ニ轉住シ又ハ一時候領内ニ

在テ納稅義務アル獨逸帝國貫人未タ住居ヲ設ケス而既ニ之ヲ

去リ他ノ聯邦ニ至ル者ニシテ第一等第一級若クハ第二級ノ歳

入稅ヲ收ムヘキニ當ルキハ其轉去セントスル月未マテノ稅額

ヲ收ムヘシ但千八百七十年五月十三日ノ二重課稅廢止布令共

同七十二二年二月二十八日ノ布令第三節ニ從テ候領中ニ住居又

ハ滞在セサル獨逸帝國貫人ヨリ收ムル所ノ歳入稅ハ此ノ例

ニ非ス即チ此ノ類ノ歳入ハ候國幣蔵ヨリ給共スル給俸御用滞

在金隱居料又ハ候領内ニ在ル土地ニ係ル永代利金永代若クハ

土地土地附共或ハ其他所有權ニ屬スル諸利得金土地所有權ニ

收獲ハ納メシ又ハ此ノ如キ土地ヲ貸附及利用シテ得ル所ノ收獲

獲ナリ

第十八條

金候領内ニ於テ設營スル諸工業英曩ニ候領内居住ノ際設置セ  
ル工業ニシテ其人既ニ去ルノ後尙ホ續テ營業スルモノ等ノ產  
獲ナリ

内國火災請合料ノ收入規程ハ第十七條ノ第一節ニ掲クル地稅  
收入ノ規程ニ照準スヘシ千八百二十六年八月二十八日ノ布令  
第四十四ヲ參考スヘシ

第四章 町村收稅方ノ記簿規程

第十九條

町村收稅方ハ其擔當ノ事務ニ涉リ帳簿及計美ヲ調整シ次ノ件  
ニテ常ニ明瞭ナランヤルヘカラス

(甲) 當ニ收メスヘキ諸稅ノ全額

(乙) 全地方ノ收入高



(ヨ) 各納税人ニ係ル明細高

(エ) 既ニ收メタル諸税ノ高

(イ) 全地方ノ收入高

(ロ) 各納税人ヨリ既納ノ明細高

(波) 納税ノ期限

(丙) (甲)(乙)ノ税額ヲ比量シテ得ル所ノ有金高

第二十條

上第十九條ノ旨趣ニ基キ茲ニ收税簿式ヲ制定スル左ノ如シ

(第一) 舊地稅ハ卷主(ロ)号ノ簿式ニ照準ス

(第二) 歳入稅ノ中第一級ハ(波)号ノ簿式ニ照準スヘリ第二級

ハ稅價表中該稅ノ部ニ当ル線画ニ倂フヘシ

(第三) 外國工商ノ内國ニ於テ營業スル者ヨリ收ムル産獲稅

ハ(仁)号ノ簿式ニ照準ス

(第四) 畜犬稅ハ地方收稅局ニ送附スル所ノ記録ニ照準スヘ

レトス

(第五) 内國火災請合料ハ各納料人負ヲ別記シ一々線画ヲ分

リヘシ

第二十一條

第二十條ニ於テ示セル(第一)(第二)(第三)ニ屬スル帳簿ハ一々年及  
三ヶ月共一期分ノ收稅金額ヲ各別々ニ記載シ若シ右期中ノ稅  
額ニシテ納付ニ就クモノアレハ其線画内ニ拂濟ノ徵号ヲ記シ  
テ區別スヘシ

第二十二條

直稅ノ收額三千「マルク」我カ七百五十円ニ当ルニ至ル地方ニ於テハ前條ノ  
帳簿ノ外又卷主(保)号ノ簿式ニ照準シテ日記ヲ録シ一々收稅ノ  
高ヲ載スヘシ



假令直税ノ額三千ヨルクニ至ラサル地方ナリトモ收税方ノ  
意見ニ随ヒ又該日記ヲ録スルヲ得ヘシ

第五章 收入規程

第二十三條

町村收税方ハ納税人ヨリ納付スル所ノ諸税及火災請合料ヲ納  
税人所持ノ租税受取帳ニ記記スヘシ但該帳ハ納税人自費ヲ以  
テ製スヘキモノトス

第二十四條

右ノ請取帳ニハ左ノ件ヲ記記スヘシ

(第一) 納付セル税類例ハ地稅又ハ歲入稅ト記ス等

(第二) 其數量

(第三) 第何三ヶ月分又ハ第何期分ニ係ルカヲ記ス

仁納税人ヨリ各種ノ諸税ヲ一額ニ纏メ納ムルキハ右總額ヲ録

其他課税品類名目 例ハ家屋田園 資本高 即チ歲入稅ヲ課ス 火災請合料ノ賦課元金高等ハ受取帳ニ録スルヲ要セスト 虫若シ

納税人ヨリ之ヲ望マハ其詳細ヲ口陳セサルヘカラス

第二十五條

收税方ハ收税ニ際シ三ヶ月分又ハ一期分ノ全額ヲ要求スヘキ  
ヲ常トス然レトモ其事情ニヨリテハ右全額ニ充タサルモ尚ホ  
受收スルヲ得

第二十六條

納税ノ際一「フ」ニ充タサルハ皆全一「フ」ニ充テ  
美シテ之ヲ收ムヘシ但其人当日ニ放テ納ムル所ノ稅額總計上  
ニ生スル分数ニ限ル

第二十七條



納税ニ用エル貨幣ノ種類ニ就テハ独逸帝國條例ニ拠テ別ニ規程ノ變更スルニ非ルヨリハ従来ノ法ニ則ルヘク就中千八百七十三年七月九日ノ独逸貨幣條例同七十四年二月二十五日ノ候領撤遜ニ於ケル獨逸新貨通用條例并同年三月十日ノ太政官布告ニ照準スヘントス

第二十八條

紙幣(拂手形及銀行紙幣)ヲ以テ納税スル者ニ就テハ従前ノ如ク豫ニ之カ為ニ制定セル規程ニ拠ルヘシ

第二十九條

第二十七并第二十八條ノ條件中若シ改定スルトキハ大藏寮ヨリ其都度町村收税方并人民ニ布達スヘシ

第六章 收入セル税金ノ送附規程

第三十條

所ニ收税方ハ遲クモ毎三ヶ月ノ後四週間内ニハ其期內ニ於テ收入セル直税ノ分ヲ會計局ニ皆納セサルヘカラス但該三ヶ月中ニ在テ收入ノ金額畧々集マリ次第其時々之ヲ納附スヘク又會計局ハ茲ニ注意シテ怠慢ナク納附セシムヘシ

第三十一條

然レトモ該皆納ノ日ニ至リ租税又ハ火災請合料ノ中高土滞納ノ分アルキハ收税方ハ右滞納金ノ明細書ヲ製シテ會計局ニ出スヘシ但其金高ハ既ニ納附セル現金高又ハ現金ト見做スヘキ  
給料証書 收入金ヨリ吏負ノ給料ヲノ金高ヲ合算シテ恰モ其三ヶ月分收税ノ總高ニ称ハスハマルヘカラス若シ此ノ規則ニ悖リ總計上不足ヲ生スルヤレハ收税方自己ノ滞納金即チ收税方セサルヘカラスト見做シ処置スヘシハ自費ヲ以テ蓄犬税ノ納付ハ千八百五十二年五月十二日ノ蓄犬税施行條例



第五條ノ規程ニ照準シ五月一日及十一月一日マテニ會計局ニ  
納ムヘシ

若シ該稅ノ中滞納アラハ亦明細書ヲ出スヘシ

第三十二條

會計局ニ送付スヘキ税金ハ規程ニ照準シテ之ヲ信封シ收稅  
才自ラ該局ニ携ルカ又ハ郵便局ニ托シ其受証ヲ求ムヘシ

第三十三條

各種貨幣ノ信封方法ハ大藏寮ヨリ別ニ規則ヲ設ケ令スヘシ



第貳號

ワイマール  
直稅收入規程



114  
A 1888  
2

第七章 滞納税ノ處置規程

(甲) 町村收稅方ノ取扱心得

第三十四條

町村收稅方ハ每三ヶ月ノ後遅クモ十四日内ニハ其期ニ至ルマ  
テ尚ホ納稅セサル者ノ家ニ就テ戸長役所ノ使僕又ハ之カ為ニ  
雇入レタル僕隸等ヲシテ但該手數ノ為ソ千八百六十五年八月  
三十一日ノ布令第百二十四條第四節ニ基キ若干ノ手數料ヲ收ム  
ルモノトス

雇僕又ハ諸雇工ノ例ハ製造業ニシテ其歳入稅ハ千八百六十九  
年三月十九日ノ布令第八十三條ニ從テ其雇主又ハ授業主ノ例ハ  
造業ノ如シヨリ納附スヘキ責任ヲ帶ハス勢ヒ雇僕及雇工ノ給料  
ヲ押ヘ以テ税金ニ充テサルヘカラサルトキハ收稅方ハ互ク千

大正十一年四月  
大塚侯爵邸寄贈



八百六十九年六月二十一日聯邦布令ノ雇僕及雇工給料差引規則ニ注意シテ毎三ヶ月ノ後速カニ納税ヲ促スヘシトス

第三十五條

收税方ハ諸税及火災請合料ノ滞納金ニ涉リ遅クモ四月七月十月正月ノ毎月未迄ニハ毎納期中ノ滞納分ヲ調査シ但畜犬税ハ五月一日及十月一日迄ニ於テ其滞納ヲ勘査シ上第三十一條ニ於テ定ムル所ノ明細計算書ヲ製シ其長局ナル會計局ニ出シ滞納者ハ規程ニ從テ正ニ催促ヲ尽セルニ相違ナキ証書ヲ請ハサルバカラス  
但滞納者ノ中勢々給料ノ差引ヲ以テ納メサルヘカ者三十四條第二節ニ見ユハ別ニ之ク明細計算書ヲ製シ遅クモ七月十月正月ノ毎月中旬迄ニ會計局ニ出シ証書ヲ請ハサルヘカラス

第三十六條

第三十五條第一節ニ於テ謂ヘル諸直税及火災請合料ニ涉ル明細計算書中左ノ滞納金ハ記入セサルモノトス

甲 第三十五條第二節ニ從テ別ニ明細書ヲ製ス、滞納金

乙 特ニ延納ヲ許シ随テ未タ其納税期限ヲ經過セサル滞納

ノ分

丙 滞納ニ因テ其元品ヲ官ヨリ抵当トシテ

物ヲ取リ上ケ或ハ競賣ヲ命シタル分

土地家屋其他課税

但甲 乙 兩部ニ屬スル滞納金ニ就テ收税方ハ各々別ニ明細書ヲ

調整シテ前ノ明細計算書ト共ニ會計局ニ出スヘシ

乙 會計局取扱心得

第三十七條

會計局ハ上第三十五條ニ於テ謂ヘル其管下ノ收税方ヨリ出ス

大藏省



ヘキ滞納金明細唇ヲシテ時期ヲ過マラス差出サシメントニ注意スヘシ  
若シ時期ニ及テ尚ホ明細唇ヲ差出サルハ會計局ハ使ヲ馳ラ之ヲ促スヘシ但其費用ハ時期ヲ失リタル収稅方ヨリ之ヲ徴収ス  
然レトモ之ヲ以テ尚ホ明細唇ヲ出サレハ速ニ其由ヲ大藏寮ニ報シテ處置ヲ請フヘシ

第三十八條

會計局ハ滞納金明細唇ヲ得ルノ後速ニ局内使部又ハ別ニ雇タル催促人(催促手数料ヲ以テ之カ給料ニ充ツ)ヲシテ諸滞納人(第三十五條第一節ニ見ユ)ヲ促サシメ十四日内ニ於テ皆納セシムル命スヘキ又滞納金ヲ納ムルニ勢ニ給料ノ中ヨリ之ヲ差引カサルヲ得サル滞納人(第三十四條第二節及三十五條第二節

ニ見ユ)ハ三日間ニ皆納セシムル命スヘシ但催促人ハ滞納人ノ姓名滞納ノ金額又催促手数料規則(千八百六十五年八月三十一日ノ手数料條例第百二十四條第四節ニ見ユ)ヲ乘セタル催促委任狀ヲ携帶スヘキ催促ヲナスノ前先ツ收稅方ニ至リ滞納明細唇ヲ示シ若シ此ノ間ニ於テ既ニ納付セル者アレハ其姓名ヲ除クヘシ

第三十九條

斯ノ如ク催促シテ尚ホ納メサルトキハ會計局ハ前條ノ期日ヲ終ルノ後速ニ千八百五十年十二月十一日ノ國稅收入ニ涉リ定ムル所ノ布令第七條ヨリ第十二條ニ至ル規程ニ照準シテ税金抵當(税金ノ抵當トシテ債物ヲ領)ノ處置ニ及フヘシ但此ノ處置ニ涉リ使部又ハ催促人ヲ用テ尚ホ足ラサレハ其地方裁判所ノ僕隸ヲ借ルヲ得ヘシ但該抵當ヲ要求スヘキ使人ハ豫メ會



計局ノ委任状ヲ携帶スヘク前以テ滞約人ノ姓名録ヲ収税方ニ示シ其間既ニ納付セル者アレハ之ヲ除ケシムベシ

若シ右抵当要求ノ條件ニ涉リ即チ上ニ訴謂ル千八百五十年十二月十一日ノ規定ニ於テ揭示セル疑件等ニ就テ決シ難キ事項出ルニ際シテハ會計方ハ宜ク地方裁判所長ト協議シテ定ムヘシ

第四十條

催促委任状并抵当要求委任状ハ必ス之ク為メニ發行セル格式ヲ照準スヘシ  
催促人ハ其催促ヲナスニ方リ必ス已レ受領スル所ノ印ヲ捺シ照準スヘシ

第四十一條

此ノ如キ抵当貨物ノ保蓄ニ就テ會計局内若シ其處ニ乏キハ

會計方ヨリ豫メ區長ニ通知シテ使部等ヲシテ之ヲ區長ニ附托セシメ受領証書ヲ取置クヘシ但運送及保蓄ニ難キ物品就中生獸畜數ハ千八百六十九年三月十日同五十七年五月二十八日ノ布令ニ照準シテ唯之ヲ封スヘク又領取スルヲ要セス

第四十二條

千八百五十年十二月十一日發行ノ布令第十三條ニ於テ規定セル期限ノ後ハ速ニ該抵当トシテ領受シ及封シタル物品ヲ競賣スヘク但上第四十一條ノ場合ニ屬シ區長ニ附托スルモノハ區長ヨリ之ヲ競賣スヘシ

競賣期日ハ會計局ヨリ新聞紙ヲ以テ廣告スヘク但シ區長ヨリ競賣ヲ行フヘキハ其廣告及期限ヲ命シ且競賣物ハ必ス現金ヲ以テ最高價ノ人ニ賣ラシムヘシ

第四十三條



競賣ニ於テ得タル金額ハ千八百五十年十二月十一日ノ布令第  
二十二條ニ從テ処分スヘシ

第四十四條

菓實及植物ノ尚ホ未熟ノ為ニ之ヲ抵当トシテ收取シ又ハ封ス  
ルモ未タ競賣シテ税金ノ滯納ヲ償ハシムル能ハサルモノハ會  
計局ハ千八百五十年十二月十一日ノ布令第十六條第十七條ニ  
照準シテ速カニ其地方裁判所ニ告訴シ且右訴狀中ニハ豫定ノ  
收入期日等ヲ記スヘク若シ延期ヲ要スルアレハ別ニ大藏寮ニ  
上申スヘシ

又會計局ハ滯納人ノ候領外ニ住スルモノ及其補助財産（製造者  
ノ機）ヲ候領外ニ置クモノニ就キ速カニ地方裁判所ニ滯納ノ  
由ヲ訴ヘ收入ヲ求ムヘシ

工人或ハ僕隸等税金ノ滯納ニ至リ勢其給料ヲ封スルニ非レハ

收入スル能ハサル者ニシテ催促更ニ其効ナク或ハ豫メ其効ナ  
キヲ視ルニ足ルモノハ會計局ハ速カニ地方裁判所ニ訴ヘ該給  
料ヲ封センヲ求ムヘシ但シ此ノ如キ滯納ハ其時々速カニ之  
ヲ告訴シ該税金ノ期限ヨリ三ヶ月内ニハ必ス給料ヲ付スル  
ヘシ（千八百六十九年六月二十一日ノ獨逸聯邦布令工料給料封  
禁法ヲ見ルヘシ）

凡ツ税金滯納ノ為メニ裁判所ノ処置ヲ受ルルハ會計方ハ必ス  
大藏代言人ニ告ケテ該滯納金ヲ収メンヲ求メ又大藏寮ニハ  
速カニ其旨ヲ上申スヘシ

第四十五條

若シ滯納人身代限ヲ受クルルハ會計局ハ諸税及火災請合料ガ  
其際既ニ納期ニ至ルガテ償ハシムヘシ但地方收税方ハ右身代  
限期限前ニ在テ該滯納税ノ明細各ヲ會計局ニ出シ置クヘシ



若シ身代限ニ際シテ其者所有ノ土地モ亦償贖財産(財産ヲ競賣ニテ諸債主ナリ償フ)中ニ入ルルハ其間ニ於テ納期ニ至レル地稅及該地内ノ家屋ニ係ル火災請合料ハ右償贖財産中ヨリ要求スヘシ此ノ如キ土地ニシテ其年内ニ於テ販賣スルハ會計局ハ左ノ諸稅ヲ償贖財産中ヨリ要求スベシ

(甲) 該土地ノ裁判上(土地ノ賣買ハ裁判所ニ於テ之ヲ認可ス)新主ニ歸スル迄ノ旧地稅

(乙) 該土地ヲ販賣マル年ノ全額ニ当ル歳入稅

若シ身代限ヲ受ル者ハ負債償贖ノタメ續クテ營業ヲナスハ今後右營業ニ課スヘキ歳入稅モ亦償贖財産中ヨリ求ムルヘシ

### 第四十六條

前條ノ如キ場合ニ方リ會計方ハ必ス其地方擔當ノ裁判所ニ就

テ既ニ贖収マシメ共今後償贖財産中ヨリ拂ハシムヘキ諸稅及火災請合料ハ敢テ右財産ノ全ク尽クルニ至ルマテ課収スルニハ非スシテ唯其收入期限マテノ分ヲ課収スルニ止マル事ヲ告知スヘシ

### 第四十七條

若シ滞納人其所有田園ヲ質入セルハ會計方ハ又擔當ノ裁判所ニ告知シテ千八百四十一年三月十二日質主及土地質入共債主ノ特權ニ涉リ出ス所ノ規令第百四十六條ニ從テ右田園ニ係ル滞納稅ハ成ルヘク負債質金ノ前先ツ償贖マシメントテ求ムヘシ

### 第四十八條

會計局ハ其他出納諸局ニ於ケル如ク諸官賃ノ俸給御用滞存金養老金諸雇料カヲ拂渡スニ方リ其受取人ヨリ應ニ収ムヘキ稅



額ハ地方収税方ヨリ出セル税金受証ニ比算シ引去ラサルヘカ  
ラス  
諸給料、御用滞存金、養老金、月俸及週俸カ王宮又ハ諸出納局即チ  
區及諸公場ノ出納局ヨリ受取ル者ヨリ又上同様ノ方法ヲ以テ  
税額ヲ引入り収入メンカタメ會計局ハ豫メ該諸出納局ニ其旨  
ヲ告知スヘク若シ切要ト見做サハ裁判所ヨリ此ノ如キ給金ノ  
拂渡ヲ禁止メントヲ求ムルヲ得ヘシ

第四十九條

私用雇人ノ歳入税滞納分ノ収入ニ涉リテハ其雇人ノ種類及約  
定ノ如何ニ拘ハラズ總テ雇主ニ就テ要求スヘキモノトス  
若シ納税人故意ヲ以テ納税ヲ怠リ或ハ其他惡意ノ証跡ヲ顯シ  
又ハ納附ヲ抗拒スルニ至ルハ會計局ハ遅滞ナク之ヲ大蔵察

第五十條

ニ申告スヘシ

第五十一條

各會計局ハ滞納税ノ収入ニ涉リ各其管内タケノ明細記録ヲ製  
スヘシ

第五十二條

會計局ハ滞納ニ屬スル租税及火災請合料ノ収入ニ就テ成規ニ  
照準シ怠慢ナク其職ヲ尽スヘク且千八百三十九年三月二十六  
日ノ布令ニ拠テ短縮セル四年間ノ期滿免除期限ニハ殊ニ注意  
シ其該期限ハ租税及火災請合料ニ涉リ書上又ハ口上ヲ以テ細  
附ヲ令レ或ハ催促処置ヲ施行スルニ拠テ中止例ハ會計局ヨリ全四年ノ間更  
ニ催促マサルハ是レヲ以テ納税義務ハ消滅スヘシトモ若シ第  
二年ニ於テ催促セシメテアルハ是レ則チ期滿免除期限ノ中止  
ニシテ是ノ日ヨリ復タ新スルヲ心得置クヘシ  
ニ其起マサルヘカラス

第五十三條



會計局ハ納税人身代限ヲ受ルノ後二年間ニ於テ滞納トナリタル直税及火災請合料ニ涉リ租税先取ノ権ヲレテ其期ニ及テ散テ怠慢損失ヲ受ケサラレメントニ注意スヘシ

丙 裁判所ノ取扱心得

第五十四條

若シ各會計局ヨリ滞納租税及火災請合料ニ涉リ其收入ヲ訴フルハ裁判所ハ千八百五十年十二月十一日ノ布令第十六條ヨリ十七條ニ至リ英七十四年二月十八日ノ該令追加第二款ニ於ル成規ニ從テ處分スヘシ

第五十五條

滞納人既ニ身代限ヲ受ルニ於テハ裁判所ハ會計局ニ對シ敢テ其他債主ト連負ノ呼出狀ヲ用ユヘカラス必ス財産分配ノ期ニ及テ特ニ呼出ヲ通告スヘシ

第五十六條

所有地ノ賣却アルニ際シテハ其地方會計局ハ右地ニ係ル租税及火災請合料滞納ノ分ヲ償ハシメントテ廻文ニテ通告スヘシ

第五十七條

右償贖マシムヘキ滞納分ハ裁判所ヨリ土地賣押金中ヲ以テ償ハシムヘク未タ辨償マサル間ハ賣買約定唇ヲ附与スルヲ許サス

第八章

滞税延納、免税、及沒收規則

第五十八條

諸直税及火災請合料ノ延納又ハ免税ヲ乞ハント欲スル者ハ其地方収税方ニ就テ申出ヘク収税方ハ豫テ之カ為ニ設ケタル延



納及免稅表ニ右請願ノ旨ヲ録記シ願人ノ身代及其他ノ事情ニ  
涉リ區長ヨリ出セル証書及稅方自己ノ意見ヲ副ヘテ遲滞ナ  
ク其地方會計局ニ上申スヘシ

第五十九條

又會計局ハ如斯ク受取リタル延納及免稅表ヲ速カニ大藏寮ニ  
呈シ其判決ヲ請フヘシ  
凡テ延納及免稅願ハ確然タル原由存スルアリテ敢テ之ヲ以テ  
滞納ヲ謀ラント欲スル恐ナキモノニ限り右判決済迄ノ稅ヲ収  
入セシメサルヲ得ヘシ

第六十條

暴電凶作、火災、又ハ洪水カノ災害ニ係ル家屋及作物ノ免稅ニ就  
テハ千八百五十四年六月一日ノ布令ニ則リ殊ニ電災ニ就テハ  
全七十年三月三日ノ布令ニ照準スヘキモノトス

第六十一條

若シ直稅及ヒ火災請合料ハ上第五十四條ニ於テ謂ヘル方法ヲ  
以テ尚ホ收入スル能ハサルハ會計局ハ裁判所ニ告訴シテ不  
納証書ヲ受取ラントヲ求ムヘシ  
但初メ裁判所ニ批ラス行政上ノ處置ヲ以テ滞納人ノ品物ヲ封  
シ質トセシメシモ遂ニ右滞稅ヲ納メス又他ノ財産以テ之ヲ償  
ハシムルモノナキハ會計局ハ自ラ該稅ノ收入スヘカラサル  
旨ヲ証書スヘシ  
右二類ノ不納証書ハ之カ爲メ制定スル成規ニ照準シテ毎三ヶ  
月大藏寮ニ報告スヘシ

第六十二條

第二級第二等ノ課稅ヲ收ムル者ニ就キ地方收稅方ハ千八百六  
十九年三月十九日ノ布令第八十一條及同年十一月十九日ノ該

大藏省



令施行規則第九十一條ニ照準シ第二半年度ノ課税算定高ヲ同  
條中制定スル所ノ課税算定簿ニ登載シ違キモ毎年八月一日マ  
テニ會計局ニ送附スヘシ

第九章 地方収税方ノ手数料

甲 直税ノ収入ニ涉ル手数料

第六十三條

地方収税方ハ旧地租及各種歳入税ノ収入ニ就テ二厘及八厘ノ  
収税手数料ヲ給与スヘシ但右ハ政府ヨリ補任セル収税方ニ涉  
リ後チ此ノ手数料ノ定價ヲ改定セサル迄ハ給与スヘキモノト  
ス

第六十四條

若シ収税方ハ其年三月十五日迄ニ於テ前會計年度ノ直税全額  
ヲ遺漏ナク會計局ニ納付スルキハ手数料トシテ旧地租ハ三分

ノ一納期上第十六條ニ見ユノ全額ニ就テ其一分ヲ給与スヘシ但収税方  
ハ右ニ就キ此ノ他万一滞納アルニ於テハ自身之ヲ補償シ且其  
収入ニ涉リ敢テ出納局ノ介助ヲ望マサラントテ約シ又手数料  
受領ノ際出ス所ノ証屆中判然此ノ趣ヲ録シ是レニ因テ斯ノ如  
キ滞納分ハ更ニ給与ノ手数料算中ニ加入セサルヘキトテ約ス  
ヘシ

第六十五條

然レトモ収税方ハ右ノ如キ税金滞納分ハ例ヘハ滞納者身代限  
ヲ受ルニ因リ又ハ其他故障ニ因テ定期内遂ニ収入スル能ハサ  
リレトシテ滞納収入規則ヲ遵奉シ敢テ自己怠慢ノ罪ニ非ルトヲ  
証スルキハ納税期限後十四日内ニ於テ此ノ趣ヲ申出ルモノニ  
限リ其事情ニヨリテハ大藏寮ノ見込ヲ以テ該滞納分ニ当ル手  
数料ハ之ヲ給シ且自己補償ノ責ヲ負ハシメサルヘシ



乙 内國ニ於ル外國商工營業者ヨリ収入スル營業稅ニ涉ル  
手数料

第六十六條

營業稅收入ヲ命セラレタル收稅方ハ全稅額百分ノ一ニ當ル收  
稅手数料ヲ得ヘシ

丙 畜犬稅收入ニ涉ル手数料

第六十七條

此ノ稅ノ收入ニ就テ收稅方ハ手数料トシテ全額百分ノ一ヲ十  
分スルノ五ヲ得ヘシ

丁 内國火災請合料ノ收入ニ涉ル手数料

第六十八條

火災請合料ノ收入ニ就テハ全收額百分ノ一ヲ十分スルノ七ヲ  
得ヘシ

戊 道路錢

第六十九條

收稅方ハ稅金ヲ會計局ニ納附スル往返費トシテ其住處ヨリ該  
局所在ノ地ニ至ル毎千メートルニ就テ月ニ六「アエン」ニ得  
ヘク設令ニ行程千メートルニ滿ストモ毎月四十「アエン」ニモ  
リ下ラサル往返費ヲ給スヘシ  
但收入マシ火災請合料ノ納附ニ涉リ別ニ之カ往返費ヲ給セサ  
ルヘシ

第七十條

郵便ヲ以テ納附スルヲ得ヘキ分ハ唯テ豫定ノ封緘及郵便料ノ  
ミヲ給スヘシ

第七十一條

收稅方ノ手数及道路錢ノ金額ハ全會計年度ノ租稅ヲ決算マ



シ後ニ非ザレバ算入スルヲ得ス但シ此費用ハ全會計高ニ随テ得ルモノトス

地籍方ニ涉ル手数料

第七十二條

收税方ニシテ地籍ノ記録ヲ兼任スルハ之レカ為メ且ツ此職掌ヲ以テ申達スル所ノ証明ニ付千八百六十五年八月三十一日ノ成法第百八條及ニ第百九條紙千八百六十五年ノ布令新紙二千八百七十二一年一月二十六日ノ第四附録第九條ニ於テ定メタル手数料ヲ得ベシ三月八日ノ地籍方勤務ニ涉ル規則ノ附録ヲ參照ス  
又地籍ノ記録ヲ兼勤セザル收税方ニ於テハ地籍方ヨリ所有地高変換ノ場合ニ方リ定規上當ニ收入スベキ唇替手数料ノ半額ヲ与ヘラルベシ地籍記録ニ涉ル千八百三十九年三月十一日ノ成法第十條ヲ參考スベシ〇布令新紙六十二條

ニ記但シ大蔵省ハ地籍方ヲシテ收税方ノ擔任スベキ地稅收入本帳ノ調整ヲ兼務セシムル場合ニ方リテハ之ニ書替手数料ノ全額ヲ与フルヲ得ベシ千八百六十五年八月三十一日ノ別達考ス

第七十三條

收税方ノ職分ニ在テ必ス施行マサルベカラサル公用ニ付テハ前条ニ記載シタル費用ヲ以テ辨償スベシ  
予茲ニ千八百七十五年一月一日ニ於テ發行セル此ノ條例ヲ認可スルノ証トシテ自カラ記名シ大公領政府ノ印ヲ鈴セシム

父親大公殿下代理

カール、アウグスト

伯トーン

スチ、ヒリンゲ



ウアイマール千八百七十四年十一月十七日

ホングロース

大蔵省

大公領町村ニ於テ設ケタル収税方ノ誓約書雛形

予茲ニ大公殿下ニ對シ忠実恭順ニシテ堅ク憲法ヲ遵奉シ當  
時授任マレ及々將來授任セラレベキ職掌ニ之レク為メ  
委任ノレタル一切ノ事務ハ成法ニ循ヒ竊モ正直ノ心ヲ以  
テ管掌シ且ツ品行ニ於テハ真正忠実ナル収税方ニ於ケルガ  
如ク端正ナルヲ誓約ス

大蔵省







貨名	包封高	貨数
五マルク	二百マルクヲ限ル	四十枚
二マルク	百マルクヲ限ル	百枚
十五フェンニヒ	五十マルクヲ限ル	百枚

総テ以上ノ銀貨ヲ包封スルハ白紙ニ包ミ而シテ各包ノ両端  
 ハ封端ヲ以テ封緘シ其上ニ役印若クハ町村ノ印ヲ捺スベク且  
 ツ此他明瞭ニ在中ノ貨数、収入方、姓名ヲ左ノ如ク  
 記載スベシ

何貨幾マルク

何収入局

収入方果

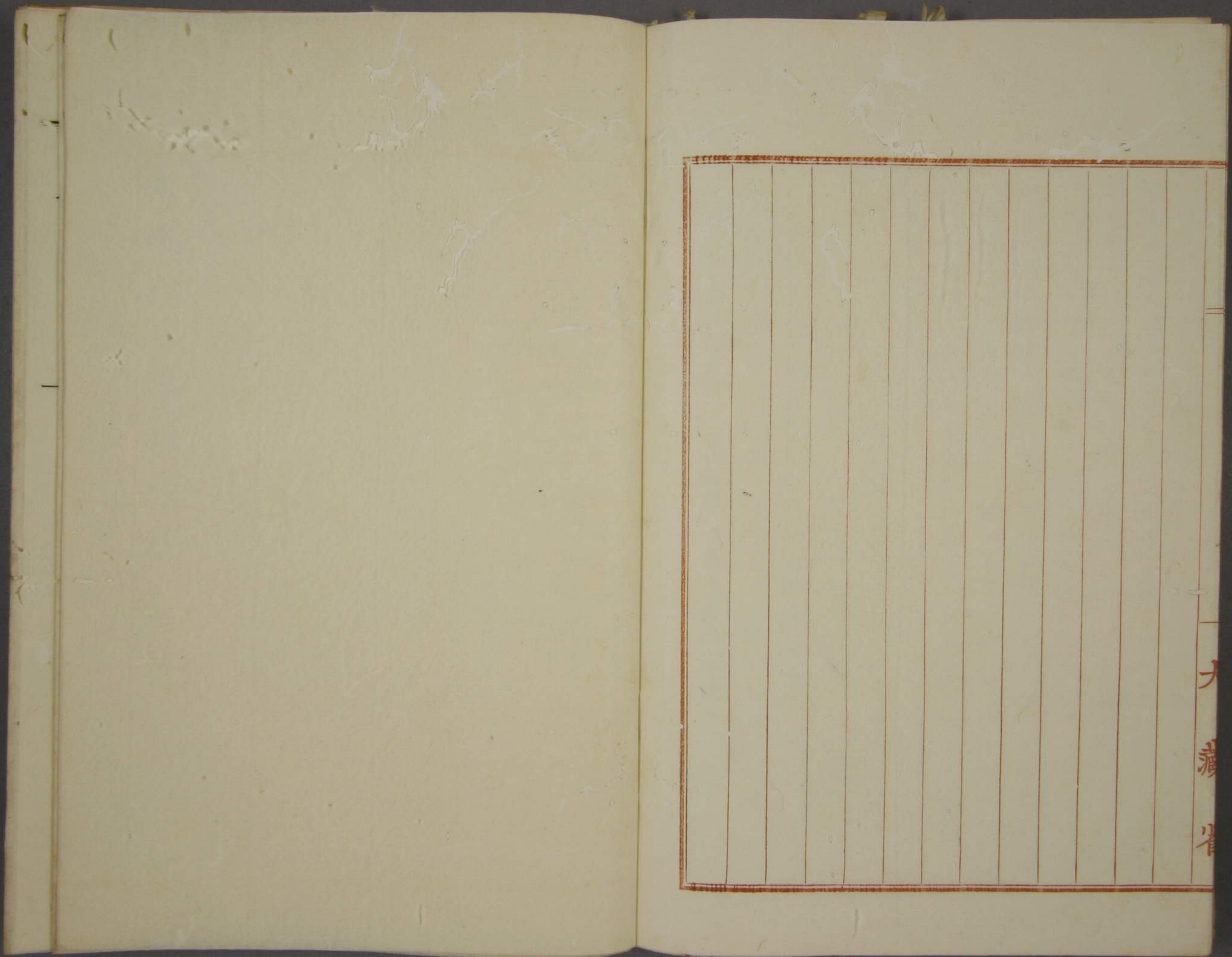
第三 第一ニ掲ケタル貨幣ノ外總テ金ニツケル及ヒ銅貨ハ普通  
 傳票ニ銀行紙幣ノ如ク収入ノ都度逐一調算スベシ

大公領ガクマン大蔵寮

伯トーン

ウアイマール千八百七十四年十一月三十日





大  
藏  
省



直税収入規程附録

ワイマール











雜記

既納税額

定價表第五項  
ニ從テ加算シ  
タル收税

役所ノ名

收税人ノ  
姓名并ニ  
職業

税額

等級

番号

月日

マルク フェン















旧地稅收入簿雛形



